

金目エコだより

発行日 平成26年 1月 25日
 発行者 エコミュージウム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101
<http://hiratsuka.johokyoyu.net/area/kaname>



餅つき・鏡もち・しめ飾り !!

年末の12月21日、金目公民館に野菜塾メンバー23人が集合、お餅つきを行いました。もち米は野菜塾で作ったもので、初めての人はずきたての熱い餅を千切った鏡もち造りに悪戦苦闘。出来上がりはシワが入ったり、イビツだった



りですがこの一年の感謝と良い年であることを願った気持ちが入っています。その後お楽しみの、大根おろしと、きな粉での試食会、手作りのお餅は格別で、笑顔、笑顔。来年は野菜塾で何を作るかの話に花が咲きました。稲わらを使ったしめ縄造りの先生は渋谷精一さん、お手本を手際よく造りましたが、生徒はまたまた悪戦苦闘、個性あるしめ縄を造って野菜塾が終了しました。

平成26年度の野菜塾は3月から金目公民館で募集いたします、応募用紙にてお申し込み下さい。作業日は主に日曜日の朝(2~3時間)、作物は夏野菜、大豆、黒豆、里芋、もち米、等 募集塾生15名程度、受講料1,000円/年。詳細は金目公民館の応募用紙に記載いたします。(黒部光司)

金目エコ会員が講師となって小学校へ出前授業

平成21年からエコミュージウム金目まるごと博物館による出前授業を行ってきました。今年も金目エコガイドボランティアの会員である柳川勝正氏が講師となり、10月22日にみずほ小学校(4年生2クラス)で、また11月27日には金目小学校(4年生3クラス)で行いました。この出前授業は学校からの要請を受け、柳川氏と学年担任との綿密な話し合いを数回行ない実行されました。



90分間授業の中で、金目川誕生の歴史、金目川の流れの変遷と耕作面積の変化、弥生時代の金目川と暮らし、金目川と環境、金目川の氾濫・洪水についての授業が行われました。両校の子ども達は柳川講師の話を食べるように聞きながら熱心にメモを取っていました。また担任の先生は「教科書を使った授業と違って、地元の方が直に語りながら教えて頂くと、子どもたちの関心も高くなり、郷土愛も高まります」と大変喜んでおられました。(米村康信)

地名シリーズ 青柳 姥ケ懐

(うばがふところ)

東海大学正門入口の西側にある地形地名

ウバ(姥、乳母)とフトコロ(懐)を重ねた地名 ①ウバはウバフ(奪)から崖地や崩壊地をいい、②フトコロはフ(含)とトコロ(処)で崖や山に抱かれたような地形をいう。(転じて乳母の暖かい懐か) 従って自然に風を防ぎ崖や台地に抱かれた日当たりの良い低地をいう。③また日当たりの良い処として奈良に「うばのふところ」があり、長崎にも「うばのつくら」がある。鎌倉の「姥ケ谷」は、もと「姥ケ懐」といわれた。「相州鎌倉極楽寺村絵図」に「姥ケ懐谷」がある。

(チャレンジ金目55問 歴史検定三級) 第7問

平成に造られ市内でも大きい馬頭観音があるのは、どこのお寺でしょう。

- ① 広川善福寺 ② 北金目不動院 ③ 青柳妙現寺 ④ 片岡龍源寺 (答えは次頁)

通学合宿で「金目の宝 発見！」

地域教育カネ트워크協議会主催の「通学合宿」が11月10日から2泊3日で行われました。この通学合宿は、自分たちで食事を作り、公民館に宿泊しながら学校へ通う中で、異学年や他校の友達と絆を作り、地域のさまざまな方との結びつきを深める事業の一つです。



この通学合宿の初日に、金目エコガイドボランティアの会の池田弘氏が「もっと知ろう！金目」という演題で「金目の宝発見！（富士景観、金目川、親水公園のホタル、鎮守の森、金目観音、五領ヶ台貝塚、真田・北金目の遺跡等）」について、パワーポイント使って約45分間の対話を混ぜてわかりやすく講演しました。

講演を聞いた子どもたちは、こんな素晴らしい宝が金目にたくさんあることの驚きと地域の誇りを感じた様子でした。また、この事業の主催者からは、「この講演をもっと地域の大人や小学校の先生方にも聞いてもらいたい」と言ってもらえる程、好評でした。
(教育カネ트워크通学合宿委員会 米村康信)

力作がいっぱい!! ドングリ・クラフト

昨年の11月30日(土)、金目公民館にて金目エコミュージアムと公民館共催のドングリ・クラフトづくりが開催されました。当日は金目小、みずほ小の児童30人、小学校入学前のお子さん3人、お父さん、お母さん9人がドングリや木の枝を使って色々な作品作りに挑戦しました。今回はその中からいくつかの作品を紹介します。紙面の都合上全部紹介できずごめんなさい。
(松本 勇司)



ドングリ・クラフトと言えば、定番のトトロだね!



雪ダルマかな?



めざせオリンピック!



これは何かな??



上手だね!



みんな、楽しかったネ!!

博物館で、金目の特別展開催

金目エコと平塚市博物館との共催で、今年3月15日から5月11日まで、春季特別展「水と生きる里一金目の風土とその魅力」が博物館と金目地域で開催されます。水の恵みを受け、水と闘って、今の豊かな金目があることを展示資料とイベントにより解説します。展示解説は開催期間中3/15と5/6に博物館で行います。

金目地区におけるイベント：3/29 金目ウォーク、4/5 記念講演会(古文書講読・金目川について)、4/20 生きもの観察会、4/26 子ども自然観察クイズラリー
博物館におけるイベント：3/22 記念講演会(田園都市構想と民権)、4/12 金目の「食」を味わおう、5/6 どんぐりクラフトづくり

イベントへの参加募集要項は「広報ひらつか」等各種メディアをご覧ください。

編集後記 金目エコ主催の3/21 秋山博墓前祭、4/6 金目桜まつりも開かれます。(第7問の答え③)

金目エコだより

発行日 平成26年 5月 30日

発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
広報部

連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

<http://hiratsuka.johokoyou.net/area/kaname>

特別展「水と生きる里—金目の風土とその魅力」 特集号

平成26年3月15日から5月11日まで、平塚市博物館において金目エコと平塚市博物館との共催で、春期特別展：「水と生きる里—金目の風土とその魅力」が開催されました。

特別展の目的を「金目エコと博物館が協力し、金目地域の個性、魅力、資源を調査・再発見し、その結果をまとめて、地域おこしに結び付く展示特別展を開催し博物館での展示だけでなく、金目でもイベントをする。」に決定し、実行委員会が組織されました。

金目川をはじめとする「水」という大テーマの下に各種小テーマ設定し、約1年間研究・調査をしました。その結果を図録（右の写真、A4、64頁）にまとめるとともに、博物館で展示しました。

博物館が地域で活動するエコミュージアムと手を組み特別展を開催することは県下で初めての試みといわれ、注目を浴びました。参観者のアンケートは概ね好評でした。

感想の一部を紹介します。

- ① 金目という一地域で、よく調べ、発掘し、区分して、整理したものだと感じます。年月を要する研究活動はしっかりしたリーダーとよき協力者なければできませんが、この展示会はそういう人々に恵まれたことを示しています。敬服します。
- ② 郷土を大切に思う気持ちが、様々なところを感じられて好印象を持ちました。

なお、展示物の一部を金目公民館において8月15日まで展示しておりますのでご参観ください。

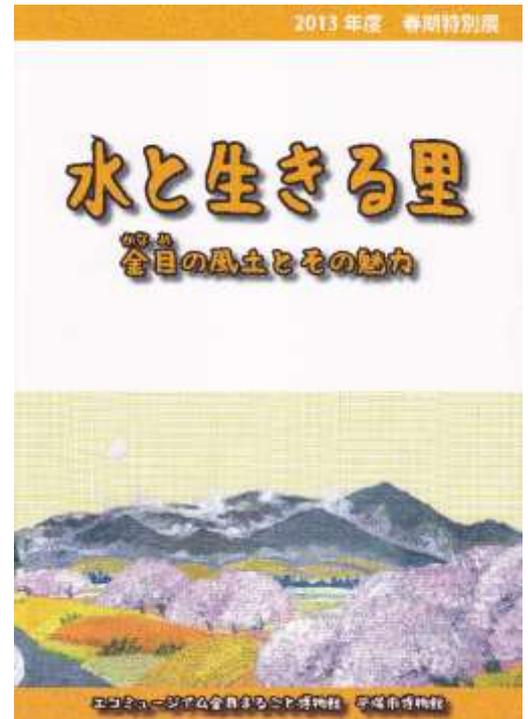
展示期間中に行われた各種イベントの概要を以下に記します。

3/15、5/6 特別展示解説

初日は約25名（右の写真）、2回目は6名が参加しました。

3/22 講演会、土井浩氏「田園都市構想と民権」

出席者：46名。落合市長が「金目エコは土井先生の発案で誕生しました。歴史のある金目を盛り上げてゆきたい。」と挨拶され、土井先生は「金目村の特徴とは、金目川の流路変更とクリスチャンによる自由民権運動なのに、これが多く書かれていない。」と話されました。



3/29「金目ウォーク」

参加者 7 名、北方 14 ヶ所のサテライトを見学。参加者の中には今日の説明を聞いて、金目の素晴らしさ、金目の歴史・文化の深さに感心という人もいました。（詳細は別掲）

4/5 講演会、早田旅人氏「一枚の古文書から郷土史を読み解く」

出席者：40 名、『金目川堤前々より御入用御普請之覚』（A3、4 頁、原文、翻刻、注釈付）を用い、逐一現代語訳をして解説され、関連する写真をスライドで示されました。

4/12「金目の食を味わおう」

参加者 31 名。調理の女性 5 名が博物館の科学研究室で調理。添田の「里山の恵み」と題した講演の後 11:30 から食事。来場者は口々に「おいしい、素晴らしい」を連発し、「次があればまた参加したい」と、金目産の食材を楽しんでいました。

金目産の食材を用い、メニューは、釜炊き御飯（キヌヒカリ）、煮物（大豆の五目煮と筍）、揚げ物（野菜のかき揚げ）、おひたし（根三つ葉）、みそ汁（里芋と豆腐）、お新香（浅漬けとたくわん）、甘味（よもぎ団子）。



4/20「生き物観察会」

35 名参加。青柳地区中堰水路、魚 10、エビ類 5、底生動物 8、カニ・貝類 6、両生動物 2、合計 31 種を捕獲。子どもたちは何が取れるかと好奇心で目を輝かせていた。（詳細は別掲）

4/26「子ども自然観察クイズラリー in 金目親水公園」

参加者は小学生以下 50 名、保護者 35 名の計 85 名。公園で見られる植物、鳥、昆虫に関して出題された 9 問を、公園をくまなく歩いて解答するピンゴー・クイズラリーに挑戦しました。このイベントに金目中学校科学部生徒 28 名も参加し当日の準備やスタッフと一緒に出題のお手伝いもしてくれました。（下左の写真）

5/6「どんぐりクラフトづくり」

参加者は子ども 162 名 大人 120 名、計 282 名。午前中と午後の 2 回開催しました。材料のどんぐり（マテバシイ、クヌギ等）を用いて種々の作品を作りました。大盛況で、金目の人や自然の素晴らしさを感じとってもらえたのではないのでしょうか。（下右の写真）



（特別展実行委員長 添田吉則）

金目ウォークに参加して

3月29日、金目ウォーク「金目の自然と古代ロマンめぐり」に参加しました。金目観音を出発し、北金目バス停付近、親水公園、北金目周辺を見学し、塚越古墳公園にて昼食後真田方面まで足を伸ばして史跡を巡り、金目観音に戻る5時間ほどの行程でした。ここで私が詳細を書いたら、ガイドの皆様のお仕事が無くなってしまいますので、最も印象に残った事を書きます。

北金目バス停にかかる歩道橋で御所様堤と金目川の治水についての説明がありました。この付近は1609年の堤完成後も洪水に泣かされた土地だそうです。説明を聞きながら眺めてみると、青柳方面からS字状に急流を下ってくる川の水が、堤に勢い良くぶつかる様子がはっきりと見て取れます。子どもの頃から何気なく眺めていた風景でしたが新たな発見です。また、減ったとはいえ網の目状に張り巡らされた用水路など、金目はまさに金目川の水とともに生きてきた土地であることがあらためて感じられました。

同様なイベントは時々行われるそうなので、当たり前の風景の中に隠れる新たな発見を体験したい方にはお勧めのイベントです。お問い合わせは金目公民館まで。（国道ウォーカー）



～ 清い、はやい流れに水草のしげみ ～ 自然体験、生き物観察会

自然・景観部会 柳川三郎

4月20日どんよりとして、今にも雨が降りそうな空模様の中、平塚市博物館春期特別展のイベント「自然体験、生き物観察会」が南金目の金目川中水門からの水路で行われました。

当日の気温は11℃ 水温15.5℃と肌寒さを感じるなか、遠くは大和市からも参加され総勢35名の観察会でした。参加者たちは、観察会が始まる前からにぎやかな雰囲気でした。

大人は原体験に浸り、子どもたちは何が取れるかと好奇心いっぱい網の中をのぞき、ピクピクと動いている小さな生き物に感動しています。次も、次も網の中はエビ、ドジョウがとれ、

バットは生き物でいっぱいです。幼児まではしゃいでパシャパシャ川の中を歩いています。

皆の目がだんだんと輝いて川から上がろうとします。水の流れは最初と同じようにはやく、きれいです。観察できた生き物はたくさんです。アブラハヤ、タモロコなど魚が10種、エビ類はヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビ、ヤマトヌマエビなど、底生動物ヒゲナガカワトビゲラ、コカゲロウ、ガムシ、ガガンボ、ヤゴ、コオニヤンマ、ヒメゲンゴロウなど、そしてサワガニ、タイワンシジミ、モクズガニもいました。

子どもにはアマガエルが人気です。この上ない満足感を得ることができました。そして、何だろうと寄ってきてくる人、こっちの方でザリガニが取れるよと親切に教えてくれる人、田んぼの仕事に来た人が声をかけるなど、周囲も注目をしてくれていました。



（チャレンジ金目 55問 歴史検定三級） 第8問

南金目の「血噓」（ちむせ）と国府祭は深い関係があります。5月5日の当日、金目川で禊（みそぎ）をする神社神輿はどこ神輿でしょう。

- ① 南金目神社 ②比々多神社 ③北金目神社 ④片岡神社

（答えは次頁）

金目エコだより

発行日 平成26年 8月 1日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 58-0101
<http://hiratsuka.johokoyou.net/area/kaname>

今年もおいしい！野菜塾

野菜塾塾生 国近素子

美味しい、楽しい野菜塾を今年も楽しませていただいています。最初の作業は里芋の植え付けでした。種芋の残りをもらって食べたそのおいしさにびっくり！ 続いて作ったキュウリ、ナス、トマトも、野菜ってこんなにおいしいものだったんだと再認識しました。特にミニトマトはお弁当や料理のいろどりとしてしか思っていませんでしたが、甘くて収穫が楽しみです。

初めての田植えは足が抜けなくてすってんころり。足跡の穴をふさぐようにして、後ずさりして苗を植えていくのだと知りました。

大豆を脱粒するのに、クルリ（右上写真、手で回している道具）を回してたたきつけるのは面白かったです。

昨年の餅つきには参加できなかったのが残念でしたが、いただいたもち米は赤飯にし、収穫した黒豆はふっくらと煮ておいしくいただきました。2月には、作った大豆で味噌作りをして熟成中、そろそろいい頃かなと、これも楽しみです。

指導のみならず、土作りから苗や道具の準備までして下さっている産業部会の皆様に感謝です。



竹の子まつり、よく飛ぶ竹とんぼの極意とは？

6月7日、金目小学校にて開催された竹の子まつりに参加しました。当日は多くの親子連れで賑わい、竹を利用したおもちゃや竹とんぼ作りに熱中する子ども達の姿が見られました。

その会場にて竹とんぼ担当者より竹とんぼ作りのちょっとしたコツを伺いましたのでご紹介します。

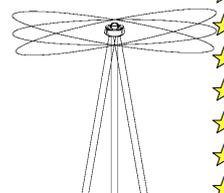
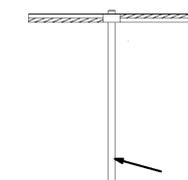
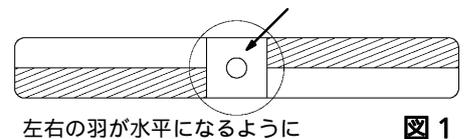
竹とんぼの羽が自由に回転できるように指や機の端に置いた時、左右の羽が水平になるように調整する。(図1)

図1 囲み丸、矢印部分は浮力に寄与しないのでなるべく小さく作る。小さすぎると強度不足になるので注意！！

竹とんぼの足の部分は、なるべく下が重くなるように作る。極端なことを言えば、上が細く下に行くほど太くなるよう円錐状に削ったり、長めにしたりする。(図2 矢印部分)

以上のことに注意して仕上げれば、図3のように足を振らずに美しい飛行姿勢で滞空時間が長い竹とんぼを作ることができます。

参考までに、担当者が製作された竹とんぼには羽の両端に薄い鉛が貼られており、これが弾み車の役割を果たして高く長く飛んでいました。皆様もお試しあれ！！ (松本勇司)



(チャレンジ金目 55問 歴史検定三級) 第8問

真田の天徳寺境内に祀られている、真田与一の父の名前は何というでしょう。

源頼朝 岡崎義実 三浦義明 土肥遠平

(答えは次頁)

26年度 新たなスタート

5月23日、金目公民館において、平成26年度エコミュージアム金目まるごと博物館総会が、教育委員会社会教育課文化財担当の若林氏、上原氏の出席をいただいて開催されました。

総会では、平成25年度事業報告・会計報告・会計監査報告、平成26年度事業計画と予算が審議されました。

特に、平成26年度事業計画と予算の審議では、本部委員会の5大事業の継続およびサイン計画（道路案内板や標識の設置）

の推進、部会事業ではこれまでの事業の継続に加え、自然景観部会のオリオン座観察、歴史文化部会の金目検定55から100への見直し、産業部会の味噌づくり教室、情報イベント部会の自然体験塾における部会員の実践研修といった新たな事業計画が満場一致で承認されました。

（委員長 米村康信）



金目には不思議な宝がいっぱい！

塚越古墳は県下有数の古墳です。何が？
1800年前のおにぎりが見つかったのはどこ？
県下一早くホテルが飛び交う公園はどこ？

金目エコミュージアムでは11月下旬に

金目の皆様を対象に「金目ツアー」

を計画しています。

詳しくは公民館だよりでご案内します。
ぜひ参加して答えを見つけてください。



塚越古墳

編集後記

「金目エコだより」をいつも読んでいただきありがとうございます。こんな記事を書かせてほしい…などのご意見、ご感想などを事務局（金目公民館）・担当松本宛に書面にてお寄せいただければ幸いです。

（第8問の答え）

地名シリーズ 北金目 箕子橋

（すのこばし）

北金目の大久保地区の親水公園東側にある地形地名

スノコ（箕子、須ノ子）とハシ（端、嘴、橋）を重ねた地名にて、スノコはス（砂、州）のコ（処）で、流れてきた土砂が堆積した所。ハシは橋ではなく端にて先端、縁の意味で台地の端のことをいう。
従って金目川の旧河道に沿った場所にて、金目川の氾濫により土砂が堆積した土地の端をいう。

ハシの地名字例は多々あるが、橋梁の意味よりも、端、先端のハシで使用例が多いと考えられる。

また、市内には北豊田の豊田堰（鈴川）の北側にも同じ小字名がある。

（柳川勝正）

金目エコだより

発行日 平成26年12月1日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 58-0101
<http://hiratsuka.johokoyou.net/area/kaname>

収穫祭 美味しい里芋いかがですか～

産業部会 野菜塾塾生 本田久美子



11月2日、秋晴れの金目ふれあい広場で恒例の収穫祭が開かれました。通路両側のテントの下、地元の野菜、お米、パン、お菓子等が並んでいて、その中には今まで知らなかった物もありました。ぷ～んと流れてくる焼き鳥、焼き芋の匂いに誘われて行列ができていました。フリーマーケットでは掘り出し物はあるかな？と広げられた物を手に取っては探し、大きな袋いっぱい買う人もいました。休憩所では満席になるほどたくさんの方が座っておしゃべりしていたりと、会場内のあちこちで見られた光景、会話のやりとりは、みんな仲間、みんな友達と思えるような温かい金目でした。

私も野菜塾に参加して育てた里芋を売るという、初めての体験をしました。「美味しそう」、「大きいね」...評価して買ってもらえる嬉

しさを実感しました。踊りや太鼓を楽しんだ後、お楽しみのお米の抽選会では歓声があがり笑顔のうちに収穫祭は終了となりました。

金目の農家（酪農・ばら・米・ねぎ）を訪ねて

7月28日金目エコのガイドボランティア16名が4軒の農家を訪ね、その歴史と現状を勉強しました。

・初めに酪農家・芹澤幸雄さん。「昭和30年頃金目の酪農が始まり、昭和50年頃には乳牛・豚の飼育がはやり、豚は3,000頭もいた。昭和57～58年に堆肥処理施設が必要になったり、乳質規格の規制強化で金目に30軒あった酪農家が3軒になった。乳牛の寿命は5-6年で廃牛とされ、肉とする。」

・片岡の大澤寛清さんは、「ばら栽培を開始したのは昭和49年。当時、金目にばら農家が13軒あったが、今は5軒である。ユーザーの多様化や燃料費の高騰などの苦労がある。ばらは夏に剪定し、出荷は9月～翌年6月まで。今は15種類ぐらい栽培している。苗木を定植後数か月で出荷でき、主に東京・横浜の市場に運送するが、農家が直接地元の花屋に持ち込むこともある。」

・米作農家は黒部修次さん(写真)。「平塚の米栽培面積は400町歩、その95%は味が良いとされるキヌヒカリで、残りの5%がコシヒカリとサトジマン、もち米である。田植から4か月で米になる。8月10日頃には出穂し、気温は低い方がよい。暑いと穂の乳液がゆだり乳白米となる。従って、お盆の頃の10日間で収量のよし悪しが決まる。金目の反当り収量は8～9俵である。」

・ねぎ農家・柳川義雄さんによると、「今年の作付は1.5反、過去の最大は8反もあったが、連作障害が出て少なくなった。ねぎは乾燥に強い作物である。品種は龍翔で、白い部分が長く、割れ(分結し)やすい。病虫害対策では、苗場のネキリムシ、冬場はさび病、夏場はスリップ、アザミウマが重要。泥棒がいて困る。」とのことでした。(添田吉則)



(チャレンジ金目55問 歴史検定三級) 第10問

金目川の源流は、秦野市蓑毛の山奥にあります。その山の名前は何かというでしょう。

大山 丹沢山 春嶽山 浅間山

(答えは次頁)

灯ろう流し 中学生ボランティアの思い

金目中 ボランティア

お盆の明ける8月16日、毎年私は祖母と家で送り火を焚きます。今年はお盆の送り火を焚くことは出来ませんでした。初めて灯ろうを流しました。夕闇の中、灯ろうに火を入れてもらい、流れていく光景はとても美しく幻想的で、本当にどこまでも、天国までも届くのではないかと感じました。

中学生ボランティアとしては、かき氷のお手伝いをさせて頂きました。大人の担当役員さんには、とても親切に面倒を見て頂き、楽しく過ごすことが出来ました。

私はこの「灯ろう流し」に参加して、より一層心に強く感じた事があります。それは「地域とのふれあい」です。まだ歩き始めの子どもから、私の祖母よりご年配の方まで、多くの方が色々な地域から参加されている。とても素敵な事だと感じました。これからもこのような行事を続けてほしいと思いますし、参加していきたいと思っております。

最後に、「灯ろう流し」のお手伝いをさせて頂き、本当にありがとうございました。



新装なった与一堂 南原小が見学

新装なった天徳寺の与一堂に、10月9日南原小学校の6年生28名が見学にやってきました。「相模の武士を調べる」総合学習の一環で、岡崎四郎義実の岡崎城址見学に続き、その息子の真田与一義忠について調べるためでした。(そのあと土屋三郎宗遠も調べるとのこと)。

初めは6月の予定でしたが工事中のため入れず、2回目は台風の影響で中止となり、3度目の正直。9月20日に与一堂が完成し、記念のイベントが開かれた後でしたから、真新しい与一堂を見学することができました。

ガイドボランティアの会が与一堂まで案内した後、「与一の郷づくり協議会」の陶山豊彦氏からカラー刷りのプリントによる丁寧な説明があり、真風堂(神輿蔵)の与一の像や家来の陶山文三・文六の像も見て、具体的なイメージがつかめたようでした。特に甲冑を付けた本物そっくりの与一が登場したので、これには子どもたちもびっくり。記念撮影をし、名物ののど飴もいただいて、大満足の様子でした。

(池田弘)

金目の四季彩

モミジバフウ

東海大学北の道路から鮮やかな紅・黄葉が見られます。「紅葉葉楓」と書きますが、カエデ科でなくマンサク科です。アメリカカフウともいい、大正時代に渡来し、街路樹として各地に植えられています。特徴は機雷のようなイガイガの実で、落葉してもいつまでも残り、クラフト材としてよく利用されます。(池田弘)



編集後記

今回の記事の中に農家訪問があります。記事からは農家の皆様のご苦労がうかがえます。私たちの命を支える、田んぼや畑を大切にしましょう!!

(第10問の答え)

金目エコだより

発行日 平成27年1月30日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101
<http://hiratsuka.johokyoyu.net/area/kaname>

新年を迎えて

委員長 米村康信

明けましておめでとうございます。金目エコミュージアムの会員また読者の皆様におかれましては、健やかに佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は平塚市博物館と共同で春期特別展「水と生きる里一金目の風土とその魅力」が開催でき、金目エコの大きな発展の一歩となりました。

今年の干支は末（羊）、仲間と群れをつくって生活するおとなしい動物です。また、羊毛は私たちの体を温かくして包んでくれます。本年も金目エコは、羊のように地域の皆さんと一緒に（群れて）金目地域の将来を見据えながら、物心とも豊かな温かい金目になるよう頑張りたいと思います。本年も皆様方のご理解と惜しみないご協力を宜しくお願い致します。

お飾り作りに挑戦

公民館事業「お飾り作り教室」が昨年12月13日に開催され、指導員の柳川勝正氏による「正月飾りの意義」の説明後作業が開始されました。

毎回参加して器用に作業を進める人や、初めて参加の小学生が小さな手で一生けんめい取り組んでいる姿を見ると、行事の手伝いをさせて頂いている私は昔を思い出した。中学生の頃、年末になると隣の婆さんが正月飾りを作ってくれとワラの束を持ってきた。ホークという農機具を逆さにしてワラをすき、水で湿し1.5mほどの縄をないながら所々に2～3本ずつワラを垂らすのだが下向きに揃わず苦労したものだ。

そんな事を思い出しながらの手伝いは、自然と子供たちの手元に目が行く。母親と参加の小学生は課題の玄関飾りを作り上げ一文飾りに挑戦している。上手く出来るか心配そうだった女性も形が整ってくると自然と笑顔になっていた。「正月のお飾り」を自分達で作るという文化は、行事を支える人々によりこれからも金目地区で伝承されて行けばと思います。



(猪俣俊和)

金目の歴史・文化を勉強しました！

通学合宿実行委員

金目中学校区地域教育カネネットワーク協議会は、11月9日（日）から金目小、みずほ小に通う4～6年生の37名が金目公民館に寝泊まりしながら学校へ通う2泊3日の通学合宿を実施しました。

この通学合宿の初日に毎回、地域の子どもたちに金目の歴史、文化、自然を知って金目の素晴らしさを知ってもらおうと、「金目を知ろう」というタイトル講演会を行っています。今年は250年前から昭和30年代まで続いていた「回り地蔵」＝「子育て地蔵」について金目エコ（歴史・文化部会）の柳川勝正氏に講演してもらいました。柳川氏の金目に対する愛着がほとばしるほどの熱心な講演で、子供たちは、金目地区が昔から地域の村人たちによって、生まれた時から大切に見守られていたことを実感し、またこの回り地蔵が地域の情報をももたらしていたことに驚き、約40分間熱心に聞き入っていました。

また、この講演は保護者にも聞いてもらい、お父さんやお母さんたちにも金目の歴史・文化の深さを知らしめることができました。歴史文化部会の皆様をはじめ、金目エコの会員の皆様に感謝申し上げます。



（チャレンジ金目55問 歴史検定三級） 第11問

広川にある五領ヶ台貝塚は、いまから何年前頃の遺跡でしょうか。

- ① 10,000年前 ② 5,000年前 ③ 1,000年前 ④ 500年前

（答えは次頁）

ドングリで作ったよ！



イベント・情報部会は11月23日(日)、金目公民館と共催で10時から同館図書室で「どんぐりクラフト」を開催しました。募集定員児童24名と付き添いの保護者14名、園児2名の計40名で作品づくりに挑戦しました。

作品づくりに先立って、パワーポイントを使ってドングリの種類・特徴(実、殻斗(帽子)、葉の形状など)、どんぐり拾いが出来る金目地区の場所等の説明、更に道具(キリ、グルーガン)の使い方の注意が行われました。

参加者は家で考えてきた作品を直ちに作り始める子、見本作品を参考にしながら作る子、親またはスタッフと相談しながら作る子とそれぞれまちまちですが、その作る顔は真剣そのもの、無心に作っている子どもの顔がとても印象的でした。その姿を見るとスタッフ7名は、いつしか準備の苦勞や疲れは吹っ飛び、満足と充実感に変わっていました。(米村康信)

真田与一が出陣！ (金目の魅力再発見ツアー 開催)

ガイドボランティアの会 池田弘



地名シリーズ 真田 <宿>

真田のお天王さん「真田神社」周辺の地名(小名)
①この地名は江戸時代街道が整備されて、交通・物流の拠点に付けられた行政上の区画名であり交通集落名です。
②またそれ以前(平安時代か)は、宿場の機能があつて、商業や物流が盛んな地域に付けられた都市型の集落名です。
③また一方「ジユク」が転じて湿気を多く含んだ湿地帯や窪地等の地形地名でもある(宿河原、宿窪田等)
市内では大神に「宿仲」、豊田小嶺・宮下に「宿ノ前」があり近くでは東海大の西に「矢名宿」があります。なぜか現在は宿矢名といえます。
従って、いろいろな意味でその地域の中心的な集落地名をいう。(柳川勝正)

昨年11月30日、地元の人たちを対象に「金目ツアー」を開催し、36名の参加がありました。当日は天気にも恵まれ、真田・北金目の新しい遺跡群も訪ねながら、真田神社→与一堂→塚越古墳→不動院→北金目神社→親水公園→JA 湘南金目支所の北方コースを3時間半歩きました。特に新装なった与一堂では、甲冑姿の真田与一と陶山文三が登場して大声で名乗りを上げ、拍手喝采を浴びました(写真)。

参加者からは「親切で心のこもった説明だけでなく、その場その場のお楽しみまで!エコの皆さんの心意気を感じました」「特に地元野菜と写真のお土産つきに驚いた」など多くの方々にご満足いただきました。

その一方で、「非常に盛り沢山な内容で、一つ一つじっくり見ることができたらいいなと思いました」「お弁当持参でもっと説明時間を増やしてほしい」という意見もあり、次回からは、地域の人たちとのふれあいを深めていくためにも、軽食持参でゆったりとした日程にしていきたいと考えております。

今後とも金目エコミュージアムへのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集後記

金目エコでは、3/21(土)10時に寂静寺で秋山博墓前祭(3/18~23・金目公民館でも資料展)、4/5(日)10時に金目ふれあい広場で金目桜まつりを予定しております。皆様お誘いの上ご参加ください。

(第11問の答え ②)

金目エコだより

発行日 平成27年5月13日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101
<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

花を見るだけが桜まつりではない

産業部会 樋口久美子

4月5日(日)金目公民館で第7回桜まつりが開催されました。展示コーナー、フリーマーケット、子供向けに昔あそびコーナーなどがありとてもにぎやかでした。野点ではお茶と和菓子が用意されゆっくりされている方もいました。スタンプラリーでは金目観音まで歩き、土手に咲く桜はソメイヨシノ、八重桜、大島桜であることを聞きました。スタンプを集めてゴールすると賞品がもらえるので、大人も子供もガイドボランティアさんの話をよく聞いて答えを探していました。桜は花を観るだけではなく、葉桜、虫が葉を食べているところ、紅葉、新芽の出るところなどを見る楽しみ方もあります。桜まつりが3年連続の公民館での開催となり残念だと思いましたが、花の散った後も桜の木を見る楽しみができました。



味噌づくりに参加

野菜塾・塾生 杉浦大輔

野菜塾には仕事の関係で思うように参加できずにいた。しかし、2月8日の味噌づくりには2度目の参加ができた。

公民館の調理室に13時半に21名が集まり、協力しあって味噌づくりをするのだが、これがすこぶる重労働である。9時から煮込んである大豆を潰すとは言え、力のいる作業で翌日の筋肉痛は避けられない。前回の経験を生かしてマッシャーを用意したが、汗が額にジワジワと出て、少々塩分濃いめの味噌になりそうだ。調理室は麴の香りに包まれ、談笑しながらの作業は和気あいあいと楽しく進んで行く。容器に味噌玉を打ち付け(ストレス解消!)、消毒をして自宅の冷暗所に置き、時折味噌のご機嫌を伺いながら半年程度寝かせれば完成。

市販の味噌とは比べ物にならない旨さ。野菜塾のキュウリに付けて食べれば絶品! 最高!! 他に味噌汁、炒め物、に使えば一味違った美味しさになる。この味が忘れられず、作るの大変だが喉元過ぎれば何とやらで、また次回も参加したい。



金目の四季彩

金目の野イチゴ

五月の南金目の里山や血噓坂、狸久保などでは、赤い実をつけた野イチゴがたくさん見られます。一番大型なのはクサイチゴ(写真)。白い大きな花を咲かせたあと、甘くて大きい実をつけます。道端に多いヘビイチゴは実は小さく、おいしくありませんが、毒ではありません。(池田弘)



(チャレンジ金目55問 歴史検定三級) 第12問

県立平塚盲学校の前身で私立中郡盲人学校を起こし、金目の鍼医さんとして地域の福祉向上の先駆けとなった人は誰でしょう。

- ① 宮田寅治 ② 小林晋斉 ③ 秋山博 ④ 猪俣道之輔 (答えは次頁)

13回目の「秋山博墓前祭」

3月21日、南金目の寂静寺本堂にて第13回「秋山博墓前祭」が開催されました。式典は米村委員長挨拶に始まり、大久保良允住職による読経、焼香、更に落合平塚市長の来賓挨拶に続き、池田ボランティアガイド会長による秋山博の人となり、業績紹介等がされました。

県立平塚盲学校長の来賓挨拶では金目地区住民による墓前祭が引き継がれたことの感謝と御礼が述べられ、同校同窓会会長からは盲学校卒業生より健全者が鍼灸業に携わる割合が多くなって、盲学校卒業生は厳しい状況に立たされている現状報告がなされました。

また、今年で2回目を迎えた「福祉作文」では、優秀作品4点が作者本人によって朗読紹介され、参列者へ福祉の大切さを訴えました。

なお、3月17日～22日には金目公民館ロビーにて第4回「秋山博資料展」も開催された。(参列者)



オリオン座を注視！

2015年1月から2月の月のない夜に「金目の夜空のオリオン座を見よう」の調査を延べ39名で行いました。光害(ひかりがい)を今まで知らずにいましたが、地上の光で星が見えにくくなることです。最近夜空(夜8時～9時)を見たこともありませんでしたが、星空がきれい引き込まれるようでした。オリオン座のペテルギウスやリゲルの一等星と三つ星とその他の星が少し見えました。地球も1つの星で満天にキラキラ光る星を見られることを願う者です。平塚市の七夕まつりも星のロマンの物語です。

古今共 願い叶うか 星空に (小林直幸)

天の川 ロマン豊かな 伝統に 思い巡らす 七夕まつり (小林直幸)

自然景観部会 小林直幸・柳川三郎



画像はウェブサイトより

サテライト探訪 ① 真田神社・北金目神社の 鳥居

ガイドボランティアの会



何気なくくぐっている神社の鳥居。実は大変なパワースポットです。

江戸時代の鳥居は市内には4基しか残っていませんが、そのうち2基が金目に残っています。真田神社の鳥居は、150年も前の文久3年(1863年)北金目神社は安政5年(1858年)。鳥居に向かって左手の柱の裏に年号が描かれていますから、よく確認してみてください。

そのうち真田神社(写真)は、きれいな御影石(花崗岩製)で、高さ約5M。市内4基のうち最大級のもので、こんな大きな柱をわざわざ大阪の有名な業者(石工)に頼んで、船で運んできたそうです。

浦賀で積み替え、須賀の港に運んだ後、豊田・中原など近郷近在の11の村々が総出で真田村まで運んできたそう。で、「疫病退散」の猛烈なパワーを発揮する「真田のお天王さん」への信仰心が、いかに大きかったかを物語っています。本殿にお参りした後、関東大震災でもびくとせず、150年間も立ち続けている柱に触れて、パワーをもらってください。

編集後記

金目エコ主催の春の大きな行事である秋山博墓前祭と金目桜まつりが、共に小雨模様の中ではありませんでしたが、無事に終了しました。参加していただいた皆様にお礼申し上げます。

5月連休明けから約1か月間、金目親水公園を流れる小川でホタルの乱舞が見られます。ぜひ鑑賞してください。(第12問の答え ③)

金目エコだより

発行日 平成27年8月1日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101
<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

平成27年度総会開催される

平成27年度エコミュージアム金目まるごと博物館総会は5月22日、金目公民館にて開催されました。

26年度事業報告・会計報告に続き27年度事業計画・予算案が審議され了承されました。

27年度の主な事業活動は次のとおりです。

- 4月 金目桜まつり 野菜塾
- 5月 自然体験塾（こども自然観察会）
- 6月 竹の子まつり
- 7月 そうめん流し
- 8月 灯ろう流し
- 11月 収穫祭、自然体験塾（ドングリクラフト）
- 12月 餅つき・お供えづくり。正月お飾り
- 2月 みそ作り教室、冬のオリオン座観察会（～3月）
- 3月 秋山博墓前祭

その他、金目地区内の神社・仏閣に案内板・説明板の設置、モミジ・菜の花による景観づくり、金目ふるさと検定の完成、金目俳句文化の継承、市内の小中学校等の要請に応じ出前授業（出張講義）の実施、金目への来訪者に対し地域案内の実施（ガイドボランティア）等金目地区各種団体と連携を密に取って随時積極的に活動を行っていきます。（片倉徳広）



地名シリーズ⑩片岡 稲荷山

片岡神社東側の高台にある伝播地
 中近世に広まった稲荷信仰により、京都の伏見稲荷を勧請して稲荷神社を鎮座させた場所（地域）に多く付けられた地名。平塚市内にも岡崎（稲荷坂）、四之宮（稲荷前）、土屋（稲荷谷）等四〜五ヶ所の小字名があり、金目にも南金目神社西側の滝沢の隣に稲荷谷という地名があります。お稲荷さんは、食の神様にて稲の守護神であり、稲作農業や

当時人気の真言密教と相俟って全国に普及しました。集落の氏神として、あるいは各家の屋敷神（一般的には屋敷内の北西に祀った）として祀る一方、地域のコミュニティケーションの場として稲荷講が盛んにおこなわれました。新編相模国風土記稿の片岡村（加多遠加牟良）に稲荷社ありと記載されているが、現在不明調査中です。（柳川勝正）

（チャレンジ金目 55問 歴史検定三級） 第13問

「お天王さん」とよばれ、有名な明神鳥居がある神社はどこでしょう。

- ① 片岡神社
- ② 八幡神社
- ③ 真田神社
- ④ 熊野神社

（答えは次頁）

野菜塾に参加して

野菜塾塾生 すずききよえ

今期初めて野菜塾に参加させて頂きましたが、なかなか楽しいです。元々、好きなテレビ番組はNHK「やさいの時間」。これまではプランターで育てる程度で我慢してきましたが、野菜塾では陽当りの良い広い畑で、しかも指導者付で何種類もの野菜を育てます。たった1週間でこんなにも成長するというのを目の当りにできるのは新鮮な面白さです。最近の日曜の朝は、1～2時間の作業をし、さも大仕事をしたかのように服に泥を付けて帰り、収穫したキュウリをかじる。広い畑で太陽を好きなだけ浴びて育った野菜達は、色も形もやんちゃで元気な顔をしていて、美味しい！



楽しくて実益もあるとは、我ながら良い趣味を持ったものだと思っています。

竹の子ごはん、最高！！



6月6日、金目ふれあい広場で「竹の子まつり」が行われました。竹塾は金目地区の竹林を整備し、本来の美しい竹林に戻し、合わせて竹の利活用を8年前から整備を行ってきました。

「竹の子まつり」はその一環で、竹を身近なものとして感じてもらうと共に、自然の大切さやありがたさを子ども達に学んでもらおうという趣旨です。

今回の参加者 127 人を4組に分け、親子で竹を削って箸作りを体験してもらいました。危ない手つきの親子もいたが、何とか箸の格好に。

自分たちで簡単な竹細工が出来るようになれば嬉しいですね。お昼には公民館運営委員さんにより「竹の子ごはん」が用意されました。各自で苦労して作ったマイ箸で食べる「竹の子ごはん」の味は格別、お代りに何度も並ぶ子ども大勢いました。竹林の整備開始から今日まで長期間ご協力をいただいた方々に深く感謝申し上げます。

(竹塾世話人 黒部栄三)

サテライト探訪 ② 千須谷の 出羽三山供養塔

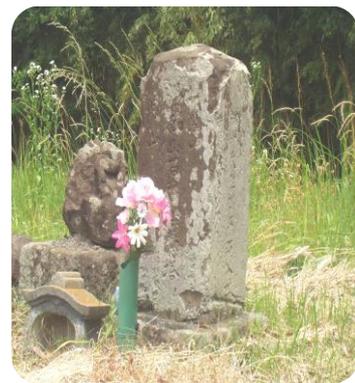
ガイドボランティアの会

千須谷にかつては水田がありました。金目川より高い場所なので湧水や天水が頼りで、しばしば水不足に苦しみました。

ある年も日照りが続いていました。村の鎮守・熊野社や大山不動に雨乞いしても、一向に雨が降りません。村人たちは困り果て、三人の代表を出羽三山に送ることにしました。三人は出羽三山の修験者から霊水に浸した手拭いを授けられると、乾かさないようにして村まで持ち帰りました。すると、待ちに待った雨が降り出しました。

感謝した村人たちは、供養塔を建て、日照りの時には、近年までその前で雨乞い念仏を行っていました。

出羽三山は、山形県にある月山、湯殿山、羽黒山の総称です。古くから修験道の霊場でしたが、江戸時代になると農耕神としての性格を持つようになり、関東地方まで信仰圏を広げていきました。



この供養塔は、金目観音と飯泉観音を結ぶ巡礼道に建ち、百番観音供養塔を兼ね信仰とも関連しています。

編集後記

夏真っ盛りですね。と言いつつももうすぐお盆です。全国的には8月の月遅れのお盆(旧盆)が一般的ですね。金目エコの事業活動にもありますが、8月15日親水公園での灯ろう流しに参加しませんか？それぞれの思い・願いごとを灯ろうに託してみたらいかがでしょう。

(第13問の答え ③)

金目エコだより

発行日 平成27年12月1日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報委員会
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101
<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

秋晴れ！収穫祭！ O×クイズで盛り上がる！

11月1日、金目ふれあい広場で9回目の収穫祭が開かれました。例年にもまして多くの人でにぎわい、秋晴れ最高！

会場では野菜や手作りのアクセサリやおもちなど、いろいろなものが販売され、中でもサンメッセしんわの「湘南みかんぱん」は、今年度「全国逸品セレクション」で準グランプリを受賞した舌鼓もの。

午前中は「プリティーキッズ」や長寿会、「スタジオブラック」のダンスが披露され、12時過ぎにはお楽しみの豚汁と新米ごはん400食が無料で振る舞われました。誰もが美味しいと表情を緩ませていました。

お昼休みには堀之内、川前、中久保、北久保、片岡の5地区による太鼓の競演があり、13時過ぎからはO×クイズが行われ、老若男女100名以上が参加しました。

第1問「金目で多く栽培されている米の品種はコシヒカリである。」(正解は×) さすが全員正解。第5問「ホタルは、オスが光るがメスは光らない」(正解は×) 意外に難問で2人が正解。正解した人は、南足柄の出身なので知っていたとのこと。最後の第8問は「江戸時代、金目川の堤防は(中略)一番多く切れたのは片岡堤である。」(正解は×) 金目に長く在住だから知っているとのこと。このO×クイズは、平塚で初めてのご当地検定「金目ふるさと検定」をもとに出題されたもので、楽しみながら金目を再発見することができてよかったと思います。

イベントのトリは先着300人に配布された抽選券で新米キヌヒカリが50人に当たる恒例の大抽選会が開かれ、大盛況のうちに無事終了しました。来年の収穫祭も楽しみです。

(三木和俊)



太鼓の競演



会場は人だかり



豚汁だ！ご飯が欲しい！



O×どっちだ？



新米ゲット！

《お知らせ》

上記文中にもありますが、「金目ふるさと検定」を11月1日に発行しました。地元金目の歴史・文化、自然、産業などについてのご当地問題集です。

クイズ感覚で友達同士、また家族で問題を出し合い、楽しみながら金目の魅力を再発見するきっかけとなり、地域への愛着が一層深まることを願っています。

初級編(3級)～上級編(1級)の3セット(解説版付き)でA4判200円。金目公民館で販売しています。お問い合わせは同公民館☎(58)0101へ。



(金目ふるさと検定 3級＝初級編) 第14問

金目でいちばんたくさんとれる果物はなんでしょう

- ① ミカン ② ナシ ③ カキ ④ モモ

(答えは次頁)

《県立平塚盲学校》 見学記

地名シリーズ⑪南金目 雷

いかずち

(太田) (雷谷戸)

歴史・文化部会 池田 弘

郷土の「盲目の偉人秋山博」をご存知ですか？

「金目の鍼医さん」として全国的に知られ、明治43年(1910年)、県立平塚盲学校の前身「私立中郡盲人学校」を設立した人です。金目エコの主催行事として、毎年春分の日、寂静寺で秋山博墓前祭が開かれます。

そんな縁があって、平成27年7月9日、金目エコ会員16名が県立平塚盲学校を見学しました。

校長の挨拶、概略説明の後、2班に分かれて鍼師、灸師、按摩・マッサージ・指圧師(三療師)による実技指導を見学しました。髪の毛より細い針を刺し、電気を通すと筋肉がぴくぴくと動く様子を見たり、「せんねん灸」をツボに貼って温熱を体感したりして、秋山博先生のご苦勞の一端を偲びました。その後、人体経穴(ツボ)標本、体育館のクライミング装置、拡大読書器、盲人用算盤など、視覚障がい者用の独特の設備や教具を見て回り、その充実ぶりに驚きました。

小さな点字器に慣れた手つきで点筆を打ち、一生懸命点字を作成している小学生の姿が印象的でした。

また、ここは中途失明者の成人も多く入学し、三療師の国家試験をめざしてがんばっているとのことでした。



スッキリ!

金目川右岸、太田と上岡の境にある地形地名
①イカ(巖)とツチ(土)で”険しい土地”の意か、また②イカル(埋、生)とツチで土砂に埋まった土地の意もあり、③雷神信仰による地名との説もある。いずれにせよ水に係して土砂が流れ込んだ”険しい土地”の意と考えられ、地名の場所も金目川の右岸で洪水により土砂が流れ込んで埋まった土地と考えられる。当地区は、平成以前は水田(ドブ

ツタ)で、通学橋の近くにあった雷堰から金目川の水を取水して水田耕作を行っていた。平成になり、土地造成が行われ宅地化されたために堰も不要となり、平成十四年頃に閉鎖された。地名の意味や過去の水害の経緯等からして、当地区は水と深い関係にあり、いかなる時も生命の水を愛し水と共に生きなければならぬと
(柳川勝正)

サテライト探訪 ③ 平和記念碑

ガイドボランティアの会 露木正巳

世の平和 ねがひつつ あらむふるさとに

やすらに眠る なき霊は今



金目観音の山門右手に、忠魂碑と並んで建てられているのが平和記念碑です。金目村の事業として建立されたもので、碑陰には、「日華事変並びに太平洋戦争に次の諸君を失い哀悼の意に耐えずここに村民の敬意と感謝の心をこめた浄財によりこの碑を建立する」と記し、戦没者の氏名が刻まれています。

昭和30年(1955)3月に行なわれた除幕式について、歌の作者である佐佐木信綱は次のように書いています。

「金目村に着き、村役場に憩うて式場に案内される。坂東七番の観世音寺 一楼門には正平の年号の鐘がかかっている一 の境内。高い石組の上に、東郷元帥の書かれた忠魂碑、新たな平和記念碑はその左に建てられた。村長柳川力君の熱意に感じて自分の詠んだ歌がうるわしい碑となったのである」(佐佐木信綱『作家八十二年』)

編集後記

今年も残りわずかとなりました。暑い夏が終わったと思ったら瞬く間に冬の到来。年の前半よりも後半の方が短く感じられます。「若いときは、一日は短く、一年は長い。年を取ると、一年は短く、一日は長い」(フランス・ベーコン)。あなたはどちらですか？

よいお年を!

(第14問の答え ③)

金目エコだより

発行日 平成28年2月1日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報委員会
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101
<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

10年目を迎える金目エコ

委員長 米村康信



明けましておめでとうございます。会員をはじめ、地域の皆様方は穏やかな暖かい新年を迎えられ、それぞれ今年目標に向かって新たな決意をなされたかと思います。

エコミュージアム金目まるごと博物館(略称:金目エコ)は今年の6月で発足10年目を迎えます。これまで五大事業として金目桜まつり、灯ろう流し(共催)、収穫祭、出前授業、秋山博資料展と墓前祭等の実施を通じて金目エコを理解していただきました。また4つ部会は金目の歴史、文化、自然、産業、暮らし等の調査・研究活動を通して、その結果を地域の子もたちをはじめ多くの方々に紹介し、出版物として発行して来ました。特に昨年「金目ふるさと検定」1, 2, 3級編を出版し、地元の小・中学校や市内外から大きな関心が寄せられています。

金目エコが更に大きく発展していくには、これまで9年間の活動を顧み、皆様方のお智恵をお借りしながら、現状に合った組織改編、新たな事業展開、若い世代の会員の増強、そして愛される金目エコを目指して精進して行かねばなりません。我々、会員共々これらの目標に向かって邁進する覚悟であります。

金目エコに地域の皆様方の更なるご理解、ご協力を宜しくお願い致します。

「金目ふるさと検定」合格者第1号

金目エコ・金目検定編集委員 添田吉則



平成27年11月1日に発売された「金目ふるさと検定」を神奈川新聞で知り、金目公民館で購入された横浜市戸塚区に住む荒木覚さん(45)が、検定に取り組み、2級と1級に見事合格され、11月28日、池田弘検定編集委員長から第1号の認定証が授与されました。荒木さんは大学で地理学科を専攻されたこともあり各種検定に興味を示し、神奈川検定横浜ライセンスや川崎市検定、横浜水道局検定を受検されたと言う。「金目ふるさと検定」は、地域密着型で、解説書が無ければ難しいとおっしゃっていました。検定と解説書を通じ、現地を訪問したい思いに駆られたとのこと。

「金目中学生も検定」に挑戦

金目中学校から「金目ふるさと検定」(3級)受検の申し込みがあり、12月14日~15日、一年生の3クラス111人が社会科の授業(郷土学習)で検定問題に取り組み、その後、20点以上(30点満点)の成績優秀者6人に「3級合格認定証」が授与されました。是非皆様方も地元金目のことをどの程度知っているか受検してみませんか?

春嶽山植林地探訪

歴史・文化部会

平成26年4月に金目川の水源・春嶽山の尾根にブナの植林を実施しましたが、その生育等現状確認を視察し、壊れているシカ除け柵の修理、支柱・防護ネットの破損修理を行うため、今回(平成27年12月2日)植林地を訪問しました。参加者は11名でした。



尾根の急坂を登り



シカ除け柵を修理



無事ミッション完了、全員集合!

かなめこうみんかん「どんぐり工作」

平成27年11月23日の勤労感謝の日に「どんぐり工作」をしました。

金目エコミュージアムと金目公民館のコラボです。33名の子どもたちとみんなの弟や妹4名、それに16名のお父さん・お母さん、合計53名が集まりました。イベントの係りの人や公民館運営委員の方たちも加わって、公民館2階の集会室はとてにぎわいました。まずはじめに金目エコ委員長米村康信さんのきれいな「どんぐりの画像」を見ながら、コナラ、クヌギ、マテバシイなどを学びました。つぎに、小枝、葉、木の美などを使って、どんぐりマウス、どんぐりトトロ、やじろべえ、どんぐり人形やたくさん仲間たちを作りました。



今年も金目公民館では、親水公園、東海大学、五領ヶ台公園でたくさん、いろいろなどんぐりを集めておきます。おともだちに、「どんぐり工作、いっしょに、行こうよ」と呼びかけてくださいね。公民館ではみなさんの参加を楽しみにしています。やくそくだよ。

(遠藤知克)

「年神さん」を迎える準備 お飾りづくり



正月行事の「お飾り」づくりは、年神さんを各家々でお迎えするための準備です。年神さんは、稲作の神さんであり、その後穀物の守護神となり、五穀豊穰を祈る神さんとなりましたが、農耕の発展とともに豊作を祈念して普及してきたと考えられます。稲作は農耕の中心となり、田の神と同一視され、食の神さんとなり、最も大切な正月の行事として迎えられたと考えられます。こうして一年の感謝とけじめ、そして新年を迎えての各家庭の繁栄と、各人の長寿長命を願う正月行事となってきました。従って、使用材料には稲の藁をつかい、また新芽の葉が成長して古い葉が落ちる「櫟＝12月」に習い、家が代々継続繁栄して行くようにと「櫟」や「橙＝12月」等が使用されています。また、飾り付けについては29日は「苦立て」、31日は「一夜飾り」になるからと忌む風習があり、28日から30日が良いと言われております。飾り付けの期間は、1月7日の松の内までの地域が多く道祖神祭り等で処理されてい

(柳川勝正)

金目の魅力 再発見ツアーを開催

ガイドボランティアの会

11月29日(日)「第二回 もっと知りたい! 金目の魅力 再発見ツアー」を実施しました。

参加者は18人(うち半分はリピーター)。前回より半減してしまいましたが、よく知られた南方コースだったからか? また前回の反省で「ゆっくり、軽食持参で」をテーマにし、徒歩は1時間余りですが、4時間の日程を組みました。これが長すぎてよくなかったのか、いま分析しているところです。



参加者からは「非常に濃厚で、大変勉強になりました。時間も距離も程よく、適当と感じました」「金目観音の中に入れたのがよかった」「天気に恵まれ、山回り(田子嶺)の景色が特によかった」「南金目神社の社務所でお茶の接待を受け、ゆっくりできたのがよかった」「(東北復興支援をしている)宗信寺の住職の話は、福祉のまち金目にぴったりで感動しました」と、感謝と満足の声をいただきました。

なお今回はSCN(湘南ケーブルテレビ)の取材もあり、放映もされました。

編集後記

今年の干支は、1956年(昭和31年)に次ぐ戦後2回目の丙申(ひのえさる)で「大変革の年」だそうです。良い変革ならいいですね。

金目エコのイベントでは、秋山博墓前祭(3/20、10:00~寂静寺)、金目桜まつり(4/3、10:00~金目ふれあい広場)を主催しますので地区の皆様方の参加をお待ちしています。

金目エコだより

発行日 平成 28 年 5 月 1 日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報委員会
 連絡先 平塚市立金目公民館内 ☎58-0101
<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

親子で初めての桜まつり

太田地区在住 宮田祐介

今回、初めて子供達と親子で「金目桜まつり」に参加しました。当日は雨の予報でしたが、幸運にも雨に降られることなく、子供達が楽しみにしていたスタンプラリーにも参加できました。このスタンプラリーでは、金目観音の歴史や文化財についての知識を三択クイズで学ぶことができました。私は童心の頃の金目観音での思い出にどっぷりと浸り、子供達はクイズに正解するともらえるスタンプの収集に夢中になり楽しい時間を過ごしました。そのほかにも独楽回しやけん玉などの昔遊び、フリーマーケットや出店など親子で興味津々でした。この金目桜まつりをとおして感じたことは、金目に縁のある方達の温かさでした。行く先々でたくさんの方が優しく気さくに声をかけて下さり、子供達もたくさんかわいがっていただきました。このように心が通う地域の中で子供達も豊かに成長し、そして子供達も親となり、いつか是非とも親子三代で訪れたいお祭りです。



カメラに向かってピース！

秋山 博 墓前祭によせて

産業部会 平井保二郎



大勢の前で作文朗読
「大変よく出来ました！」

秋山博墓前祭は毎年3月の春分の日に金目の寂静寺で行われています。

秋山先生の墓前祭に携わって、もう12年目くらいになります。その前までは、明治時代に福祉の分野で活躍された立派な先生がおられたことも知らず、金目に住んでいて、金目の事を何も知らず恥ずかしい思いでした。

墓前祭で秋山先生の業績等の紹介があって、新たに先生の偉大さを知ることができました。また小・中学生が書いた福祉作文の朗読があり、子どもたちの福祉に対する強い関心があることも強く感じました。

これからは、子どもや孫に明治の金目について、いろいろな立派な方がおられたこと、また世のため人のためになされた事を伝えて行きたいと思います。

金目の宝 発見！…… 金目中での出前授業

金目ふるさと検定編集委員会

金目エコでは昨年「金目ふるさと検定」を発行し、学校に検定参加を呼びかけました。

金目中では、石黒校長のご配慮により12月に1年生111人が3級に挑戦し、その事後指導としての授業が、社会科（奈良先生・合田先生）の貴重な授業時間をいただいて3月に行われました。

池田弘講師（16日）・柳川三郎講師（22日）が「金目の宝 発見！」と題してスライドによる授業を行い、3級問題を中心に、金目の自然や歴史、産業について「金目の魅力」を解説しました。

事後のアンケートでは「びっくりした。金目はすごいところだと初めて知った。」と身近な地域への興味・関心が生まれ、「もっと知りたい。自分で宝を探してみたい。親やみんなに伝えたい。金目検定のツアーが企画されたら参加してみたい。」と更なる行動意欲が生まれ、「私達の自慢の金目です。私達が金目を守れるようにしたい。」「このふるさとの金目を大切に、次の世代にどんどんつなげていって、みんなが大切にできる地域にしていく。金目を日本中に広げて日本中から注目されるようにしたい」と、なんとも頼もしい限りの意見が飛び出しました。



ただ今授業中「金目ってすごいな！」

葉脈の葉（しおり）づくりと科学実験

情報・イベント部会 遠藤知克

「金目公民館 ふれあい祭り」が平成28年3月5日、6日の2日間行われました。金目エコミュージアムでは情報・イベント部会の参加として毎年、葉脈標本づくり体験コーナーを催しています。世界でたった一つの素敵な「葉脈の葉」を持ち帰っていただいています。金目エコの展示・発表コーナーでもあるので、今年も金目の自然を紹介する展示や各種科学体験実験を用意しました。



葉脈の葉完成！

金目の自然紹介では、主に「金目の鳥たち」を特集しました。おなじみのカワセミ、セグロセキレイ、アオサギ、メジロ、ウグイス、などの写真がたくさんありました。「葉脈の葉づくり」では、ヒイラギモクセイの葉を前処理して、たくさん用意しておきました。水を張ったバットに自分の気に入った葉を入れ、歯ブラシで葉脈についた葉肉（葉脈の間に残っている残がい）を洗い流してきれいな葉脈標本をつくる体験です。きれいになった葉脈は食紅の緑または赤の色に染めて、アイロンで乾かしパウチに挟み葉を作ります。葉脈の持つ繊細な網目模様様の自然美を知ってもらい、自分で作った葉で、みなさんの読書人生にお役に立てたら幸いです。

産業部会の味噌づくり初体験！

大田区羽田在住：中島恵子



昨年、金目エコの人に分けていただいたお味噌がおいしくて、私も作ってみたいと思っていましたところ、3月13日（日）に味噌づくりがあると聞いて即参加のお願いをしました。公民館に着くと畑に設置した大釜に21人分の大豆が煮あがっていて、アツアツを少し頂いたら美味しいこと。調理室で味噌づくりの説明後いよいよスタートです。まずは材料（大豆、米麴、塩）を計量し、煮豆を手動のミンチ機で潰します。参加者の方とあれこれとアイディアを出し合い効率のいい方法を探しました。潰した大豆に麴と塩をよく混ぜてみそ玉を作り、空気が入らないように勢いよく叩き付けるように容器に詰めます。表面を平らにして焼酎で消毒、ラップをかぶせて仕込みは終わりです。味噌になる

手前味噌ですが、仕込みは上手くできました！秋が待ち遠しく、食べるのが楽しみです。参加した皆さん、金目エコの皆さん、貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。金目には魅力がいっぱいです。また、参加したいです。

もみじの植樹

自然・景観部会 與野主計

真田の天徳寺と云えば、寺地1万坪を超す曹洞宗の名刹で、今になお真田と一族の栄華と夢の跡を偲んで、地元では“与一さん”の愛称で親しまれている。この広大な敷地の西南に小高い丘があり、その上に与一堂が建立されている。今回、金目エコ自然・景観部会は、その北側の急斜面に3月13日、もみじを5本植えた。滑る足元。シャベルでの穴掘り。支柱用の竹切り。カケヤでの杭打ち等。10人余で作業は午前中かかった。終わってホッと一息ついて皆で話す。



いつの日かもみじに染まる与一堂

8月23日の例大祭ともなれば、当寺院の相州一とも誇れる大神輿がこの下を勇壮にねり歩く。何年かすればこのもみじも成長してきっとお堂を錦で飾る。一同は改めて思う。

「私たちの役割とは何？ 金目の歴史的景観を守り育て、後世に遺産として継承する事では？」 微力ながら貢献できて一同は爽快だった。

編集後記

当金目エコ主催の春の2大イベント、墓前祭と桜まつりが無事終了しました。ご来場、ご参加ありがとうございました。ただ、桜まつりは朝方小雨が降ってしまいましたので屋内にて行われましたが、当日は桜がちょうど満開だっただけに心残りです。泣く子とお天気には勝てませんね。